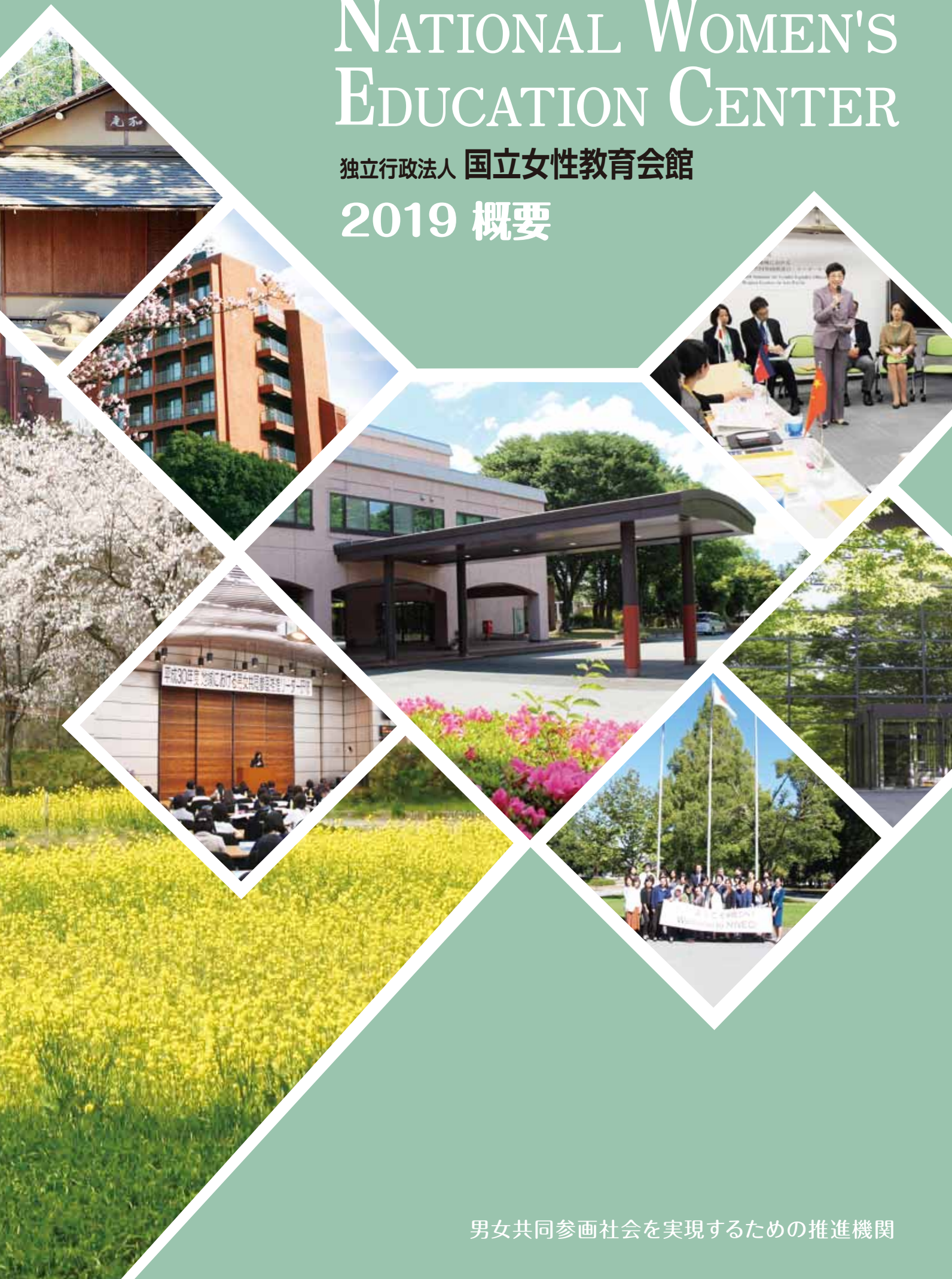


NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTER

独立行政法人 国立女性教育会館

2019 概要



男女共同参画社会を実現するための推進機関

男女共同参画社会の実現を目指して



独立行政法人
国立女性教育会館
理事長 内海房子

国立女性教育会館(NWEC)は、昭和52(1977)年に設立されて以降、女性教育指導者や関係者及びあらゆる分野での男女共同参画を推進するリーダーに対する研修や交流機会の提供、女性教育・家庭教育及び男女共同参画に関する専門的な調査研究、情報収集・提供の充実を図り、男女共同参画社会実現のための推進の拠点として役割を果たしております。

これまで、男女共同参画を推進する多くのリーダーが育ち、様々な地域課題の解決に取り組むとともに、全国的なネットワークを構築し、ともに学習プログラムを開発し、関連する貴重な記録やデータを蓄積することで、男女共同参画社会の実現を図ってまいりました。

しかしながら、政策・意思決定過程への女性の参画率の低さ、女性に対する暴力、男性の育児・家事への参加の低さ等の課題が山積しており、我が国の男女共同参画社会の実現はいまだ道半ばにあると言えます。

こうした状況を踏まえ、平成27(2015)年に策定された第4次男女共同参画基本計画とNWECの第4期中期目標・中期計画に基づき、NWECは更に男女共同参画のネットワークの中核としての役割を果たすべく、今後もより積極的に充実・深化した事業の展開に取り組む所存です。

昨年は、「学校における男女共同参画研修」の本格実施、「女性教員の活躍推進に関する調査研究」の報告書の発行、PFI事業者自主事業「アニバーサリーウィーク」への協力などに新たに取り組みました。

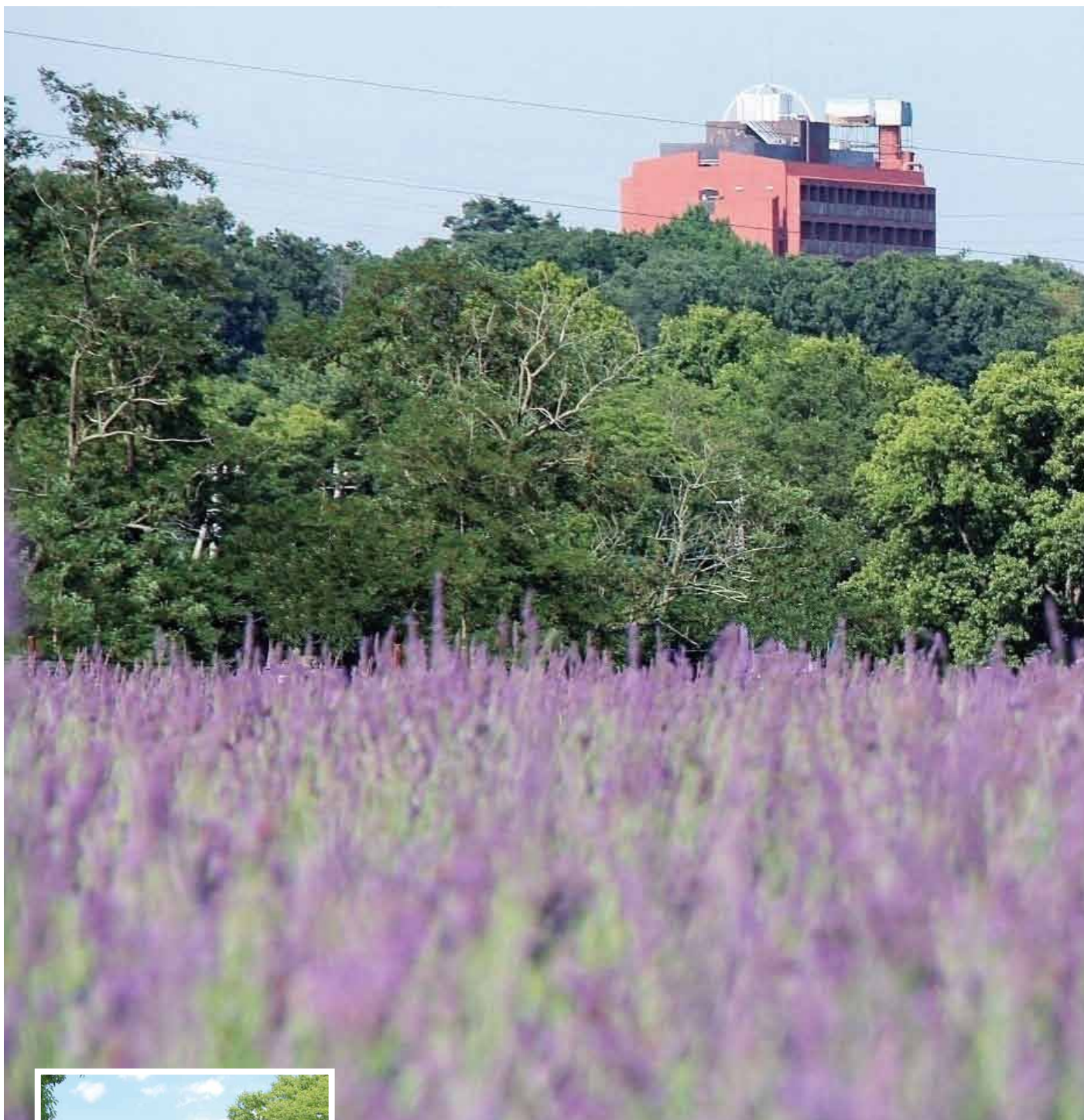
今年は、さらに「男女共同参画の視点に立った相談に関する調査研究」、ペアテ・シロタ・ゴードンの資料収集と展示を通じた大学等他機関との連携などに取り組む、事業の深化充実を図ってまいります。

引き続き皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

目 的	2
沿 革	3
事 業	4
女性教育情報センター・女性アーカイブセンター	5
女性情報ポータル“Winet” (ウイネット)	6
利用状況・出版物の紹介	7
トピックス	8
施 設	11
組織・決算	14

目的



独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)は、女性教育指導者及び女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的としている(独立行政法人国立女性教育会館法第3条)。

NWECは、その目的を達成するために文部科学大臣より示されている第4期中期目標に基づき、「研修」「調査研究」「広報・情報発信」「国際貢献」の4つを有機的に連携させつつ各事業を実施している。

沿革

昭和52年 7月 (1977年)	文部省の附属機関として 国立婦人教育会館が設置される
昭和52年11月 (1977年)	開館式
昭和54年11月 (1979年)	情報図書館開室(昭和62年11月から 「婦人教育情報センター」 平成13年1月から 「女性教育情報センター」と改称)
昭和57年 6月 (1982年)	皇太子殿下・同妃殿下行啓
昭和62年 5月 (1987年)	利用者100万人を超える
平成 6年 4月 (1994年)	「国立婦人教育会館将来構想検討委員会」が 「国立婦人教育会館の将来について」を報告
平成 8年11月 (1996年)	利用者200万人を超える
平成 9年 1月 (1997年)	愛称を「ヌエック」に決定
平成13年 1月 (2001年)	名称を「国立女性教育会館」に改称
平成13年 4月 (2001年)	独立行政法人化
平成18年 4月 (2006年)	女性情報ポータル “Winet”(ウィネット)公開
平成18年 6月 (2006年)	利用者300万人を超える
平成20年 6月 (2008年)	女性アーカイブセンター開設
平成22年11月 (2010年)	研修棟、宿泊棟等の改修工事
平成24年 8月 (2012年)	「国立女性教育会館の在り方に関する 検討会」が報告書を公表
平成25年 9月 (2013年)	利用者400万人を超える
平成27年 7月 (2015年)	PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) 制度導入



開館式で挨拶をする福田赳夫首相(当時)



皇太子殿下・同妃殿下行啓(当時)



女性アーカイブセンター 10周年展

事業

NWECは女性教育にとどまらず、幅広く男性、若年層、大学や企業等を対象とした男女共同参画に係る事業を展開し、第4次男女共同参画基本計画等で示された政府の政策に沿って、第4期中期目標・中期計画を達成するため、研修、調査研究、広報・情報発信、国際貢献を実施する。

これまでに蓄積したさまざまな資源を活用し、女性の活躍を推進するため、地方自治体、女性団体、企業や大学を始めとした教育機関との連携・ネットワークを一層充実させ、広報・情報発信を行い、社会に対して幅広くアプローチすることで、男女共同参画社会の実現を目指す。

2019年度事業

研修事業

男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施

(1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成

- 地域における男女共同参画推進リーダー研修
＜女性関連施設・地方自治体・団体＞（5月）
- 男女共同参画推進フォーラム(8月)
- 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（10月）
- 学習オーガナイザー養成研修（1月）

(2) 次代を担う女性人材の育成

- 女子中高生夏の学校2019
～科学・技術・人との出会い～（8月）

(3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成

- 女性関連施設相談員研修（6月）

(4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組

- 学校における男女共同参画研修（11月）
- 大学等における
男女共同参画推進セミナー（12月）



調査研究事業

男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施

- (1) 男女共同参画統計に関する調査研究
- (2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究
- (3) 男女共同参画視点に立った相談に関する調査研究
- (4) eラーニングによる教育・学習支援推進

国際貢献事業

(1) アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成

- アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー（10月）

(2) 国際的課題への対応

- 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」（10月～11月／国際協力機構受託事業）
- NWECグローバルセミナー（12月）
- 国際会議等で得た情報の発信

広報・情報発信事業

(1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信

- 情報資料の収集・整理・提供
- ポータルとデータベースの整備充実
- 図書のパッケージ貸出
- NWEC実践研究の刊行

(2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進

- 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化
- アーカイブ保存修復研修(11月)

(3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化

- 広報活動の充実・強化

女性教育情報センター

<https://www.nwec.jp/facility/center.html>

情報サービス

閲覧	女性教育情報センター内で自由に閲覧できる。 (NWEC本館2階) 開 室:9:00~17:00 休室日:年末年始、会館休館日
貸 出	館内貸出及び館外貸出、女性センター・図書館等を通じた館外貸出を行っている。
図書パッケージ貸出サービス	大学や高校、女性関連施設、公共図書館を対象に、様々なテーマにあわせて図書をまとめて貸出するサービスを行っている。
レファレンスサービス	利用者の学習・調査・研究を援助するために、当センター所蔵の資料や各種データベースを活用して様々な質問に答えている。電話や文書、eメールでも受け付けている。
文献複写サービス	所蔵資料について、文献複写サービスを行っている。電話やインターネット・文書による申込みも受け付けている。



情報研修プログラムの提供

利用者の希望に応じて、資料・情報の検索・利用方法等の実技研修を随時行っている。

展示の実施

所蔵資料の紹介を目的とする展示を行っている。

収集資料

平成30年
3月31日現在

項目	和	洋	計	
	累計	累計	累計	
図書	図 書	84,955	24,740	109,695
	地方行政資料	27,449	0	27,449
	計(冊数)	112,404	24,740	137,144
逐次刊行物	雑 誌	3,272	764	4,036
	新 聞	74	1	75
その他	新聞切り抜き	458,085	—	458,085
	オーディオビジュアル資料	334	4	338

● 研修棟図書館出張コーナー



正面玄関脇や研修棟1・2階のラウンジに、女性教育情報センターの図書・雑誌を置いており、その場で自由に閲覧できる。女性教育情報センター(本館2階)にて貸出も行っている。

女性アーカイブセンター

女性教育や男女共同参画施策等に関わった全国的な女性団体や女性の史・資料の収集・整理・保存・提供を行っている。目録や一部の画像はデータベース「女性デジタルアーカイブシステム」でインターネット公開している。

本館3階の閲覧室では閲覧が可能(要事前連絡)。

本館1階展示室では、「所蔵展示」と「企画展示」を実施している。



ウィネットは、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の窓口である。



女性情報ナビゲーション
インターネット上の有用な資源への道案内

NWEC作成データベース

文献情報データベース

女性教育情報センターが所蔵する図書、雑誌、新聞記事などが検索できます。

女性情報レファレンス事例集

女性関連施設でよくある情報相談(レファレンス)を、Q&Aの形式でまとめた事例集。

国立女性教育会館リポジトリ

会館の研究成果を永続的に蓄積・保存するデータベース。

海外女性情報専門データベース 館内で利用可能なデータベース

The Gerritsen Collection

オランダ最初の女性医師とその夫が収集した、女性に関する研究コレクション数千点の全文記事を収録。

Gender Watch

女性問題に関する学術雑誌のほか、新聞、ニュースレター、パンフレット、会議録など数十万件以上の全文記事を収録。

◇ **国立女性教育会館作成の主なデータベース** (件数は平成30年3月31日現在)

(女性教育情報センター)所蔵資料のデータベース	図 書 (109,695件)	一般図書、中央省庁の調査や報告書、女性団体・グループ刊行の資料等を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワードから検索できる。
	雑 誌 (4,036件)	雑誌、大学・研究所等の紀要類、地方自治体発行の男女共同参画広報誌、女性団体・グループが発行したミニコミ等を検索できる。
	地方行政資料 (27,449件)	地方自治体の男女共同参画担当課／教育委員会等が刊行した資料を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワード等から検索できる。
	和雑誌記事 (73,672件)	所蔵雑誌から選定した男女共同参画、女性・家庭・家族に関する記事を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワード等から検索できる。
	新聞記事インデックス (458,085件)	以下の新聞記事を見出し、記事中の人名、新聞名、日付、キーワードから検索できる。[昭和52年10月～昭和63年]全国紙・地方紙約60紙に掲載され、話題となった女性(人材)に関する記事。[平成元年度以降]全国紙・地方紙約45紙に掲載された男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する記事。
女性関連施設データベース (概要493件/事業37,862件 情報事業 376件/相談事業 325件)	全国の女性／男女共同参画センター・働く婦人の家の概要、学習・研修事業、情報事業、相談事業について、毎年調査した、各施設の現在の活動がわかるデータベース。	
女性と男性に関する統計データベース (432件)	女性及び男性の状況を把握する上で重要な日本の統計を、あらゆる分野にわたってとりあげたデータベース。統計表は、エクセル形式でダウンロードできる。	
女性のキャリア形成支援サイト (102件)	女性が様々な新しい分野へチャレンジし、生涯にわたり、主体的に選択しながらキャリアを形成していくための多様な事例(ロールモデル)、キャリア形成のための学習支援情報、関連情報を提供している。	

そのほかのデータベースは"Winet"をご覧ください。

利用状況

年度別施設利用状況 (昭和52年度～平成29年度)

年 度	平成29年度			累計(昭和52年度～)		
	宿泊利用	日帰り利用	小 計	宿泊利用	日帰り利用	小 計
利用団体数	1,539	2,197	3,736	41,854	50,323	92,177
実利用者数(人)	35,876	65,945	101,821	1,397,555	1,428,784	2,826,339
延利用者数(人)	74,376	65,945	140,321	3,080,239	1,494,729	4,574,968
1日当たりの利用者数(人)	216	191	407	231	112	343
開館日数(日)			345			13,330

女性教育情報センター年度別利用状況

(昭和54年度～平成29年度)

年 度	平成29年度	累計(昭和54年度～)
資料等利用者総数(人)	5,015	92,719
貸出数	図書(冊)	9,829
	雑誌(冊)	660
	研修用貸出資料(冊)	200
レファレンスサービス(件)	727	39,844
文献複写サービス(件)	7,883	20,442
館外貸出サービス(件)	285	4,159

※資料等利用者総数は、平成18年度より集計

■レファレンスサービス 昭和56年度開始

■文献複写サービス 昭和56年度開始

■相互貸借サービス 平成4年度開始

■図書パッケージ貸出サービス、個人貸出サービス 平成22年度開始



出版物の紹介

第62回国連女性の地位委員会(CSW) 早わかり

平成30年3月に国連本部で開催された第62回国連女性の地位委員会(CSW)についての学習資料を作成した。第62回CSWの主要議題や合意結論、会期中に開催されたイベントに関する情報を掲載している。



NWEC実践研究

「ジェンダーに基づく暴力」をテーマとした『NWEC実践研究』第9号を刊行した。国内のこれまでの動向や国際的な広がり、セクシュアル・ハラスメントを論じた論文、暴力の事例や暴力防止に向けた取組や支援者のための研修についても実践の展開として紹介。その他、NWECが実施している主催事業の報告や平成30年6月に迎えた女性アーカイブセンター10周年事業等を掲載している。



リーダーセミナーレポート

平成29年10月に実施した国際研修「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」参加者の研修成果をまとめたレポート『指導的地位への女性の参画』を刊行した。アジア6カ国における取組を掲載している。



初期キャリア調査 Newsletter

平成27年に民間企業の正規職についての男女(大学・大学院卒)を5年間追跡するパネル調査についてのニュースレターを作成した。第一回調査～第三回調査結果をもとに、入社後3年間の仕事内容や職場環境に関する意識変化について分析している。



その他の出版物はNWECホームページ(NWECとは/出版物・報告書)へ。

学校における男女共同参画研修

11月29日～30日に開催。基調講演では、村松 泰子(日本女性学習財団理事長)氏が、「隠れたカリキュラム」等の学校現場にみられるジェンダー課題を挙げ、男女共同参画社会の実現に学校教育が大きな影響力を持っていることを指摘した。続く事例報告では、NWECによる調査の結果や統計等を報告し、「女性管理職を増やすにはどうしたらよいか」をテーマにグループ討議を行った。

2日目は、近隣小学校の協力を得て高崎 恵(オフィスピュア男女共同参画アドバイザー)氏が、4年生を対象に「多様性を恐れない」をテーマに授業を展開後、教員向け解説を行った。千葉県柏市教育委員会は「LGBT」「ジェンダーレス制服」等、性の多様性への対応の実践報告を行うなど、研修全体を通して男女共同参画の基本について理解を深め、学校現場での実践のみならず、その背景に横たわる社会問題を俯瞰する機会となった。



女性教員の活躍推進に関する調査研究

全国の小中学校の本務教員を対象に、職場環境や労働時間、管理職志向、性別役割分担及びその意識等の実態に関するウェブアンケート調査を行った(平成30年1～2月実施、有効回答数23,817人)。

調査結果では、職位別にみると教頭の労働時間が特に長いこと、管理職になりたくない理由として女性教員は仕事と家庭生活との両立の困難を挙げており、実際に女性は家庭生活の役割の多くを担っていることなどが明らかになった。また、管理職の約半数は、育児や介護等を担う教員には管理職試験やその研修を勧めにくいと考えていること等がわかった。



▼子供が未就学児から小学生の時期に家事・育児等、家庭生活の役割をどの程度担っている(た)か

NWECアニバーサリーウィーク

11月12日～16日、NWEC創立記念日に因んで、PFI事業者(株)ヌエックバストサポート、会館ボランティア、NWECの三者が連携して学びの場を提供する「アニバーサリーウィーク」を開催。期間中、NWECは大学等の男女共同参画担当者向けのプログラムを行った。

増田 明美(スポーツ・ジャーナリスト)氏による講演では、自身の競技経験やキャリア、スポーツの歴史における女性選手の活躍と困難について紹介。2020年東京五輪をよい機会とし、スポーツ界の男女共同参画を更に進めたい、と述べた。このほかに高峰 修(明治大学教授)氏講話「スポーツ界におけるハラスメントの現状と防止策」、パネル・ディスカッション「今、活躍する女性たち、大学を語る」、河野 美江(島根大学教授)氏講話「高校・大学における性暴力への対応～被害者支援から予防まで～」を実施。大学等高等教育機関における女性の活躍、ハラスメントや性暴力防止について理解を深めるとともに、自組織・機関でどのように取り組んでいけばよいかを学ぶ機会となった。



各種事業の状況については、ホームページをご覧ください。 <https://www.nwec.jp>

8月/9月 男女共同参画推進フォーラム

8月30日～9月1日に、全国から1,000名を超える行政、女性団体、NPO、大学、企業などの担当者が参加し開催。基調講演では、国谷 裕子(東京藝術大学理事、キャスター)氏が、SDGs(持続可能な開発目標)の第5分野にジェンダー平等の実現が入っていることを紹介しつつ、すべての女性と女児のエンパワーメントを図ることの重要性を強く訴えた。

また、シンポジウム「新しい暮らしのカたち～働き方×幸福度」では、阿部 裕志(株式会社巡の環代表取締役)氏、正能 茉優(株式会社ハピキラFACTORY代表取締役社長)氏、萩原なつ子(立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授)氏らが登壇し、多様な働き方ができ、男女ともに能力を発揮できる社会創りをしていくことが、これからの私たちの課題だとメッセージを投げかけた。さらに、「ベアテの贈りもの」の上映と、NWECCに寄贈されたベアテ・シロタ・ゴードン氏に関する貴重な資料や写真、本などの展示を行うとともに、3日間を通して71件のワークショップ、パネル展示、3件の会館提供ワークショップ、初めての試みとして「多世代ワールドカフェ」も開催。参加者同士の交流やネットワークを深める熱気に包まれた3日間となった。



10月 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

10月17日～18日に開催。全国から110名を超える企業関係者をはじめ、独立行政法人、地方自治体の女性活躍推進者、管理職、リーダー等が参加。基調講演では、松本 晃(RIZAPグループ株式会社COO)氏が「企業の経営戦略としての女性活躍推進」をテーマに、企業のトップとして取り組んできた女性活躍や働き方改革を踏まえながら、その進め方や社員の意識変革について話した。パネルディスカッションでは、大槻 奈巳(聖心女子大学人間関係学学科教授、キャリアセンター長)氏が、男女共同参画の視点から「女性活躍推進と持続可能な成長に向けた取組」について解説。その後、カゴメ、積水ハウス、ユーメディアの3社から具体的な取組の報告があった。「成果と報酬」や「女性活躍推進の先にあるもの」などについて議論され、女性活躍はダイバーシティの試金石のひとつであり出発点であること、女性が活躍できる職場環境を整えることが、女性に限らず男性のさらなる能力発揮になることが指摘された。

また、NWECCが平成27年から5ヵ年計画で行っている新入社員の追跡調査をもとに、「キャリア意識とその変化」について紹介。その後、「アクションラーニング」の講義とその手法を用いたグループワークを行い、参加者それぞれが抱える課題の共有と解決に迫った。



12月 NWECCグローバルセミナー

12月7日に開催。基調講演では、ブリュンヒルデ・ヘア・オグ・オマースドットイル(アイスランド女性権利協会事務局長)氏が、女性の政治参画やジェンダー平等教育を推進してきた立場から、ジェンダー行動計画の策定や男性の育児休暇取得の促進、男女同一賃金基準など多様な動きを報告された。

パネルディスカッションでは、高見 具広(労働政策研究・研修機構 経済社会と労働部門研究員)氏からは、現状を変えるためには、残業をなくし男性の働き方も含めた包括的な見直しが必要であると指摘があり、久保 公子(市川房枝記念会女性と政治センター常務理事)氏からは、ロールモデルの提示や政治意識を高める主権者教育、ツールとしての女性活躍推進法の活用についての提言があった。さらに、伊藤 公雄(京都大学名誉教授)氏は、女性のエンパワーメントに向けた政策の一層の充実に加え、男性を対象としたジェンダー平等政策の必要性について訴えた。

質疑応答では、アイスランドでは賃金格差をどう是正したのか等について活発な議論が交わされた。



9月

女性アーカイブセンター企画展示「鉄道と女性展 ～鉄道を動かし、社会を動かす～」

平成30年9月21日～平成31年4月19日の期間、女性アーカイブセンター企画展示「鉄道と女性展～鉄道を動かし、社会を動かす～」を開催した。

男女共同参画社会実現のため、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみをたどるシリーズ企画の10回目となる今回は、男性中心の職場だった鉄道会社に女性が進出して行った過程を戦前からたどり、今まさに活躍している女性鉄道員や鉄道を学ぶ女子学生や鉄道好きの女性などを紹介した。

女性アーカイブセンター展示室では、鉄道博物館や鉄道会社等のご協力のもと、戦前・戦中に鉄道で働く女性たちの写真や女性鉄道乗務員の制服の展示、女性鉄道員数の変化の分かるグラフや鉄道に関わる女性たちのインタビューなどのパネル掲示、映像資料の上映等を行った。インタビューの詳細については冊子としてまとめ、配布した。

女性アーカイブセンター展示室、女性教育情報センター、本館エントランスホール、宿泊棟ラウンジに展示記念スタンプを設置し、子どもから大人まで楽しめるものとした。



10月

「男女共同参画すごろく(電子版)」開発・配布開始

平成27年度の女性アーカイブセンター展示で作成した「男女雇用機会均等法すごろく」をもとに、パソコン上で動作する「男女共同参画すごろく」を作成した。性別の平等が明記された戦後憲法から現在の男女共同参画推進に至る歴史に触れられる。ファイルをダウンロードすれば、インターネット接続がなくても動作する。

イラストと簡単なエピソードにより、妊娠・結婚による退職強要や、待機児童、男性の育休取得などの課題を表現している。学習設計の面でも工夫し、男女共同参画の重要な知識である、女性差別撤廃条約批准による3つの国内法改正と男女共同参画社会基本法の理念については、クイズを導入、記憶に残りやすくした。

10月よりNWECのリポジトリ(<http://id.nii.ac.jp/1243/00018792/>)からVersion1.0として無償で提供を開始している。*ご意見・ご感想は情報課(infodiv@nwec.jp)まで。



11月

「女性に対する暴力をなくす運動」での取組

11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間である。NWECでもこの運動に因んだ取組を行った。

年に4テーマの資料展示を行っている女性教育情報センターでは、10月～12月に、女性に対する暴力をなくす運動に合わせて「DV・モラハラなくそう、やめよう、逃げよう」展示を行った。この展示は毎回NWECボランティアとともに行っている。今回は女性に対するあらゆる暴力をなくしていくモチーフであるパープルリボンを用いた飾り付けを行った。

その他、パープル・ライトアップや地元のキャラクターによるパープルリボン運動のPRなど、DVやモラハラ、女性に対する暴力をなくすことを呼びかけた。また、平成31年2月には、「ジェンダーに基づく暴力」をテーマとした、『NWEC実践研究』第9号を刊行した。



施設

秩父連山を遠くに望み、都幾川に沿った自然豊かな丘陵地にある施設は10ヘクタールの敷地内にある。自然との調和に配慮し、「陽に向かい陽に帰る」のコンセプトに合わせ、東側に研修棟、西側に宿泊棟、中央に池を配置している。

女性・男性を問わず、どなたでも利用できます。男女共同参画または女性・家庭・家族に関する学習をする場合や、高校・大学が教育活動として利用する場合には、一般の利用者と比べ、安い料金で利用できます。



《施設のご利用》 株式会社ヌエックベストサポート

宿泊利用の拡大に向けて、多種・多様な宿泊プランを提供

NWECアーカイブ企画展や近隣の文化施設及び温浴施設とコラボした宿泊プランは、ネットエージェントの活用により多くのお客様に利用いただいている。

諸外国からの学校等教育機関向けの訪日教育旅行の受入では、茶道や着付け等、日本文化を紹介するプログラムを提供し、好評を得ている。自主事業であるフェスティバルでは、近隣中学校吹奏楽部三校合同演奏を行い、地元や近隣市町村からも多くの方に来館いただいている。また、地域貢献活動として嵐山町内中学生の社会科体験チャレンジ授業の受入等も実施。

その他、嵐山さくらまつり宿泊プラン、コラボランチ企画や、近隣市町村のイベントでの会館リーフレット配布等、集客に繋がる取組を積極的に行い、気軽に利用できる施設を目指し、多くの自主事業を行っている。

レストランでは、手ぶらで楽しめるバーベキュープランも好評で、家族や学生、企業等、幅広く利用いただいている。その他にもベジタリアンメニューやハラル等、お客様のニーズに合わせたメニューを提供している。



〔主な取組〕

- ・宿泊室へのテレビ(A棟のみ)やアメニティの設置
- ・バーベキューや鍋、デザートなど季節に合わせた料理の提供
- ・パン・お菓子作りなどの料理プログラム
- ・サッカースクールの開催(毎週水・木曜日)
- ・インターネット・Wifi環境の整備
- ・フェスティバルやコンサートなどの大型イベント
- ・手作り教室などの文化プログラム
- ・ヨガや体操などの健康・スポーツプログラム
- ・SNSを活用した各種イベント配信やNWEC広報
- ・近隣施設と連携したお得な宿泊プログラムの提供

各施設の利用時間、料金等詳細は
(株)ヌエックベストサポートまで
お問合せください。
<https://www.nwec-bs.jp>
☎0493-62-6723

宿泊棟

■利用時間
チェックイン 15:00
チェックアウト 10:00

種別	内容		A棟 (バス・トイレ付)	B棟 (トイレ付)	C棟 (トイレ付)	室数
洋室	1人用	38室	38室	---	---	136室
	2人用	98室	58室	28室	12室	
和室	2人用	2室	2室	---	---	24室
	4~5人用	22室	---	14室	8室	
宿泊室合計			98室	42室	20室	160室



洋室



和室



ミーティングルーム(A棟2F) ■利用定員 約50人
■利用時間 9:00~24:00

実技研修棟

■利用時間

午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



調理室 ■利用定員 約30人



音楽室 ■利用定員 約50人



美術・工芸室 ■利用定員 約30人



幼児室 ■利用定員 約20人

レストラン

■利用時間

朝食 7:00~ 8:30
昼食 11:30~13:45
ティータイム 13:45~16:00
夕食 18:00~20:00



施設

<https://www.nwec.jp/facility/index.html>

研修棟

■利用時間

午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



講堂エントランス前



大会議室 ■ 利用定員 160人(傍聴席38を含む)



講堂 ■ 利用定員 602人



マルチメディア研修室 ■ 利用定員 30人
(午前・午後のみ)



中会議室 ■ 利用定員 40人



小会議室 ■ 利用定員 12人



研修室 1~3F

研修室

研修室	室数
150人室	1
99人室	1
48人室	4
36人室	1
24人室	2
20人室	6

体育施設

■利用時間

体育施設、日本家屋施設とも。
テニスコートは午前・午後のみ

午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



テニスコート ■ 全天候型 スパックサンドコート2面



体育館 ■ バレーボール2面 ■ バドミントン3面
■ フットサル1面 ■ バスケットボール1面

日本家屋施設

■利用時間

午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



日本家屋「響書院」

茶道、華道、着付け、かるた、百人一首、作法教室など日本の伝統・芸術・文化に関する学習や交流に利用

■ 茶室 2部屋 (15畳、4.5畳) ■ 座敷 1部屋 (10畳)



茶室「和庵」

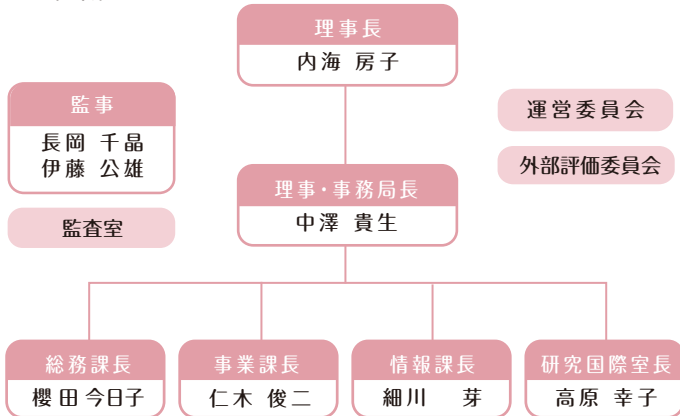
京都裏千家家元の今日庵の「又隠(ゆういん)」を模した本格的な茶室

■ 茶室 (4.5畳) 響書院とセットでの貸出

組織・決算

平成31年(2019)年4月1日現在

● 組織図



● 歴代館長・理事長

在任期間	職名	氏名
昭和52年7月1日 ~ 昭和57年7月9日	館長	縫田 暉子
昭和57年7月10日 ~ 昭和62年3月31日	館長	志熊 敦子
昭和62年4月1日 ~ 平成7年3月17日	館長	前田 瑞枝
平成7年4月1日 ~ 平成13年3月31日	館長	大野 曜
平成13年4月1日 ~ 平成16年3月31日	理事長	大野 曜
平成16年4月1日 ~ 平成23年6月30日	理事長	神田 道子
平成23年7月1日 ~ 現 在	理事長	内海 房子

● 運営委員会委員

氏名	現職
岩熊 眞起	特定非営利活動法人 女性技術士の会 前理事長
岩田 繁子	全国地域婦人団体連絡協議会 会長
大路 正浩	独立行政法人 教職員支援機構 理事
大竹美登利	東京学芸大学 名誉教授
久留島典子	東京大学 史料編纂所 教授
洪澤 幸	埼玉県男女共同参画推進センター 所長
高田 直芳	埼玉県立浦和第一女子高等学校 校長
多賀 太	関西大学 文学部 教授
高松 和子	公益財団法人 21世紀職業財団 業務執行理事・事務局長
武石恵美子	法政大学 キャリアデザイン学部 教授
根岸 茂文	一般社団法人 埼玉県経営者協会 専務理事
納米恵美子	特定非営利活動法人 全国女性会館協議会 代表理事
平林久美子	全国公立小・中学校女性校長会 会長
福田 公子	首都大学東京大学院 理工学研究科 准教授
實生 律子	国際婦人年連絡会 常任委員
村山上由美子	OECD東京センター 所長
村松 泰子	公益財団法人 日本女性学習財団 理事長
山田 昌弘	中央大学 文学部 教授

● 外部評価委員会委員

氏名	現職
犬塚 協太	静岡県立大学 国際関係学部 教授 ／ 同大学 男女共同参画推進センター長
斎藤 悦子	お茶の水女子大学大学院 基幹研究院 人間科学系 准教授
笹井 宏益	玉川大学 学術研究所 教授
萩原 貴子	株式会社 グリーンハウス 取締役
宮元 岳実	全国地域婦人団体連絡協議会 事務局長

● 決算 (平成29年度、単位:百万円)

収入		支出	
運営交付金	519	業務経費	288
運営権対価等収入	50	一般管理費	272
その他	15	その他	14
合計	584	合計	575

※百万円未満を四捨五入しているため、合計と一致しない。



